横 浜 市 教 育 委 員 会
定例会会議録

１　日　　時　　令和５年９月１日（金）午前10時00分

２　場　　所　　市庁舎　18階共用会議室（みなと６・７）

３　出 席 者　　鯉渕教育長　中上委員　森委員　四王天委員　大塚委員　木村委員

４　欠 席 者　　なし

５　議事日程　　別紙のとおり

６　議事次第　　別紙のとおり

教　育　委　員　会　定　例　会　議　事　日　程

令和５年９月１日（金）午前10時00分

１　会議録の承認

２　一般報告・その他報告事項
令和５年度 横浜市教育課程研究協議会の開催報告について
中学校給食展の開催結果について

３　報告案件
教委報第２号　令和５年度歳入歳出予算案（９月補正）に関する意見の申出に係る臨時代理報告について

４　その他

［開会時刻：午前10時00分］

鯉渕教育長　それでは、ただいまから、教育委員会定例会を開会いたします。
初めに、会議録の承認を行います。８月４日の会議録の署名者は、中上委員と四王天委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員　＜了　承＞

鯉渕教育長　それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。
なお、８月17日の教育委員会臨時会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。
次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

木村教育次長　【一般報告】

１　市会関係

教育次長の木村です。それでは、報告いたします。
まず、市会関係ですが、前回の教育委員会臨時会から本日までの間についての報告はございません。

２　市教委関係
（１）主な会議等
○８／18　令和５年度　横浜市教育課程研究委員会　総則部会　研究協議会　全体会
○８／21　令和５年度　一般学級における「誰一人取り残さない」教育の実現部会　全体会
○８／24　よこはま子どもピースメッセンジャー・子ども実行委員委嘱式
○８／24　横浜サイエンスフロンティア高等学校・附属中学校　サイエンス教室
○８／28　横浜市立汐見台小学校　新校舎落成記念式典
○８／28～８／31　令和５年度「横浜子ども会議」区交流会

（２）報告事項
○令和５年度　横浜市教育課程研究協議会の開催報告について
○中学校給食展の開催結果について

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、８月18日に「令和５年度　横浜市教育課程研究委員会　総則部会　研究協議会　全体会」が関内ホールで行われ、鯉渕教育長、中上委員、森委員、木村委員、四王天委員、大塚委員が出席しました。
続いて、８月21日に「令和５年度　一般学級における『誰一人取り残さない』教育の実現部会　全体会」が関内ホールで行われ、鯉渕教育長、中上委員、森委

員、木村委員、四王天委員、大塚委員が出席しました。
　また、８月24日に「よこはま子どもピースメッセンジャー・子ども実行委員委嘱式」が行われ、鯉渕教育長が出席しました。
　さらに、同日に「横浜サイエンスフロンティア高等学校・附属中学校　サイエンス教室」が市庁舎１階アトリウムで行われ、鯉渕教育長が出席しました。
　続いて、８月28日に「横浜市立汐見台小学校　新校舎落成記念式典」が行われ、鯉渕教育長が出席しました。
　また、８月28日から８月31日までの間、「令和５年度『横浜子ども会議』区交流会」を18区、全区で開催しております。８月28日には、都筑区に中上委員が、８月30日には、港南区に木村委員、港北区に鯉渕教育長が、８月31日には、南区に四王天委員、金沢区に大塚委員が出席しております。
　次に、報告事項として、この後、所管課から２点報告いたします。まず、１点目ですが、「令和５年度　横浜市教育課程研究協議会の開催報告について」、次に２点目ですが、「中学校給食展の開催結果について」、報告いたします。
　私からの報告は以上です。

鯉渕教育長　報告が終了いたしましたが、何か御意見・御質問等ございますか。
　特になければ、次に「令和５年度　横浜市教育課程研究協議会の開催報告について」、所管課から御報告いたします。

石川学校教育企画部長　学校教育企画部長の石川でございます。先ほどの報告にもありましたが、「令和５年度　横浜市教育課程研究協議会」が開催されましたので、それについて御報告を申し上げます。詳細は所管課である教育課程推進室長から申し上げます。

山本教育課程推進室長　教育課程推進室長の山本です。それでは、「令和５年度　横浜市教育課程研究協議会の開催報告について」の資料を御覧ください。本市教育委員会では、教育課程の編成・実施・評価・改善を促進し、学習指導の充実を図るため、教育課程研究委員会　総則部会及び専門部会を組織して研究を進めております。今年も８月に研究協議会を開催し、研究成果の発信、参加者による意見交換等を行いました。
　今年度は、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」ということをテーマにして、一人ひとりを大切にした誰一人取り残さない学びを実現し、子どもたちにグローバルな社会の中で生き抜く力を育んでいくことを全市共通の目標として研究を進めてきました。
　総則部会では、ＩＲＴを生かした学力向上の取組、社会情動的コンピテンシーの調査研究、教育ＤＸを踏まえた個別最適な学びと協働的な学びについて有識者とともに議論し、これから求められる教育の方向性について考えました。
　さらに、「一般学級における特別支援教育専門部会」を、今年度は「一般学級における『誰一人取り残さない』教育の実現部会」と名前を変えまして、対象も拡大して、全ての子どもの豊かな学びの実現を目指して協議も行わせていただきました。
　１番のところは「１　令和５年度　教育課程研究委員会　研究テーマ」になっております。２番のところに、「２　令和５年度　教育課程研究委員会　総則部会及び専門部会　参加者数一覧」を示させていただいております。集合とオンライン合わせて、この４日間で10,000人を超える教職員の皆様の参加がありました。
　裏面を御覧ください。３番には、８月18日に行われました「３　令和５年度

教育課程研究委員会　研究協議会の発信」「総則部会から発信」の内容の概要が書かれております。特に「参会者の感想」としては、「企業や自治体、教育関係者など、それぞれの立場からの話を聞くことができ、非常に考えさせられた。全教職員で共有し、これからの学校経営に生かしていきたい」という感想や、もう一つは、「自主・自立した子どもを育てていくために、教師が目指す子ども像を見据え、これまでの考え方を変えて新しい視点でチャレンジしていくこと、その際には『高度な主観』と『客観性』の両方を併せ持つことの必要性を感じて、校長として発信していきたい」というような御意見も寄せられました。

さらに、８月21日の「一般学級における『誰一人取り残さない』教育の実現部会からの発信」ということでは、「参会者の感想」として、「特別支援教育を推進するための意識として、自分の学級や学年の生徒だけではなく、『うちの学校の生徒』という意識をもつこと、組織的に取り組むことが大切だということを再確認できた」という意見や、「以前は一律に同じ指導をすることが公平としてきたが、今の教育は必要としている子どもに必要な支援をすることが公平と変わってきていることを、全教職員に理解してもらいたいと思った」というような感想も寄せられました。

さらに、８月22日・８月23日の２日間にわたり、この全体会を踏まえて、各教科等で専門部会が開かれております。各教科等の役割を明確化し、教科等固有の学びや、そこで身につける資質・能力について考えていくとともに、社会情動的コンピテンシーを育むための学習環境である学級経営や学年経営を含めた授業改善の好事例について教科等ごとに発信し、議論することができました。報告は以上になります。よろしくお願いします。

鯉渕教育長　説明が終了しましたが、何か御意見・御質問等ございますか。

森委員　御報告ありがとうございます。今回、総則部会と、一般学級における「誰一人取り残さない」教育の実現部会の二つに参加しての感想ですが、一つのキーワードにまとめるとすると、「自己決定」ということかと思いました。同じ空間、同じ時間で、同じ内容を学ぶというところからの転換の時期だという力強いメッセージもありましたが、その中でも特に印象に残った三つの点がありましたので、皆さんとも共有したいと思います。

一つは、８月21日の最後のほうにあった言葉ですけれども、子ども観の転換ということです。もう一つは、認知や力の発揮の仕方が一人ひとり違うということ。三つ目は学び方を学ぶという、この三つが特に印象に残っています。

子ども観の転換につきましては、子どもは教えられる存在というふうに子ども観を持つのではなく、子どもたちは自分で決定していく力がある存在、学んでいく力がある存在だというところから、その自己決定の場面をどれだけ増やしていけるかということが、研究協議会を通して大きなメッセージだと受け取りました。

あと、二つ目ですが、一人ひとり認知スタイルが違うという話です。言葉や数字、絵など、いろいろな形で自分が認知しやすいスタイルがあります。若しくは、力を発揮するとき、表現するときも、その得意な表現の仕方が違うので、学びのユニバーサルデザイン化ということが今、急務だという大きなメッセージを受け取りました。いろいろな実例もお聞きできて、各現場でそれが進んでいることも実感した次第です。子どもたちが自分の特性を理解することがすごく大事だということと、先生自身もそこを見取るスキルの向上ですとか、ＩＲＴやデータを活用してそれを発見しやすく、見つけやすくするということ。あと、もちろん

先生自身も視点の偏りがある存在なので、先生自身がチームで、自分が見ている視点を交換し合うことが大事だということも一つの学びでした。
　三つ目の、学び方を学ぶということですが、子どもたちの学びというのは、学校を出たら終わりではなくて、それ以降もずっと続く、生涯にわたって学び続けていくということから、自分に合った学び方を学べるように支援していく必要性を、大きなキーワードとして受け取っています。その先に、最後の問いとしてすごく大きく残っているのが、社会を変えられると思っている子どもたちの数が、日本は諸外国と比べて少ないというデータがあります。では、先生自身が社会を変えられると思っている、自分たちがそのハンドルを持っていると思えている先生はどれだけいるのでしょうという問いもありましたので、先生も、子どもたちも社会を変えられるという実感を持てるような学びのコントローラーを子どもたちに戻していくということを、すごく印象に残った言葉として最後に紹介したいと思います。
　一つだけ補足して説明いただきたいと思ったのですが、先ほど空間や時間の見直しを図るという御説明がありました。その一文についてもう少しだけかみ砕いて御説明いただけますでしょうか。

山本教育課程推進室長　ありがとうございます。時間や空間を変えるということについて、当日も教育委員会事務局としての提案もあったかと思いますが、これからの持続可能な学習、また、今これだけ教職員の働き方改革を推進している中で、先生方の負担も減らしていかなければいけない。そういう中では、横浜教育ＤＸの本質というのは、単にデータやデジタルを活用するということではなくて、そこを踏まえて自分たちの今までの働き方や組織の在り方もやはりもう一回見直して、時代に合ったように変えていくということが非常に大事だと思っております。
　そういった意味では、空間というのも、今までは教室の中でみんなが黒板の方を向いて一斉に授業するというようなスタイルが一般的だったわけですが、子どもによっては、どこで学べば自分に一番最適な学びが実現できるのか、その場所を選ぶとか、また更に時間も、今までは大人が決めた時間割の中で学習が進んでいくわけですが、子どもによっては、今日はこういった授業がしたい、または自分はこういう課題を今日は取り組みたいんだという意思があったときに、それを保障してあげる時間というのが、今まで学校の時間割の中にはなかなか組み込まれていなかったのではないかと思っております。そういったことも子どもが判断して選択していけるような学びの在り方というのを、今後は学校も考えていかなければいけないのではないかということを、この研究協議会の中では皆さんと議論できたのではないかと思っております。この後は、各学校がそれぞれ工夫していく中で、また好事例を集めて全市に発信していきたいと思っております。

森委員　ありがとうございます。本当に大事な視点だと思いました。それが共有できたことには大きな意義があったと思います。この前、文部科学大臣のメッセージが出たばかりですが、二つ目のメッセージに、「学校・教育委員会は、できることは直ちに実行を」とありました。ぜひそういった判断、子どもたちが判断、選択しやすい環境の整備ということを自校に落としていける教育委員会事務局でありたいと思います。お願いします。

鯉渕教育長　ほかにいかがでしょうか。

木村委員　本当に興味深く楽しい研究協議会だったと思っています。その中で今、山本教

育課程推進室長も説明しましたが、これからのチームとは何か。みんな同じベクトルを向けなんていうのが昭和的なチームでしたが、今は有機的なつながりを持ったチーム、つまり、今おっしゃったように、個々がなりたい自分、個々がどういったことを欲しているか。そういったことが保障されて、いざというときにみんなが同じ方向を向けると、チームは力が強くなります。多分、今も盛んですが、バスケットボールとか、様々そういったところの在り方も、みんな一斉に同じではないはずです。そこが大事だと思いました。今までの学校の学習というと習う一辺倒だったのが、習うではなくて学ぶというところに大きくシフトチェンジしていると思いますので、そこを今回、こういったいろいろな研究協議会の中で進めていければと思っています。生まれてから、生涯100年時代が今後来てくれると思いますけれども、その中で義務教育は９年しかないですよね。でも、この９年でどのように学ぶことができるか、学び方ができるかで、生涯の学習や生き方が変わってくると思うので、大きなポイントになると思っています。

あと、ＩＲＴや教育ＤＸなど、いろいろな専門用語がどんどん出てきます。でも、よくよく聞いていると、今まで私たちが経験して今後こうありたいよねということをうまく集約してまとめたのが専門用語だと思うのです。かつても片仮名言葉が嫌だと言うけれども、そこでしか感覚的に捉えられないこともあるから、毛嫌いしないで専門用語を積極的に考えていければ良いのかなと思います。それを今度は各教職員に伝えるのが管理職であり、指導者は翻訳者なので、うまく分かりやすいように興味深く伝える、ここが今度は大事だと思っています。私は２回しか出ていませんが、本当に有意義な研究協議会だったと思います。意見です。

鯉渕教育長　ほかに。

中上委員　この研究協議会ですが、東京都と比べて、東京都は予算が非常に潤沢にある中で、横浜市の強みというのは、先生たちが授業改善の研究を積み重ねてきた、これが横浜市の強みだろうと思います。ですから、毎年楽しみにしているのですが、今回見ても、昨年の延長での話、つながる話をしていましたので、非常に分かりやすかったです。個人的には、学力と社会情動的コンピテンシーという、いわゆる非認知能力と学力の関係を、私もちょっと分かっていないので聞きたいと思っていたのですが、その辺りの議論もありました。これからまた実証して横浜市も試行錯誤していくと思いますが、そういう意味でもテーマを持って追いかけていくというのは非常に良かったです。

最後の「グローバル教育と横浜教育ＤＸが目指す未来」という座談会も、非常に興味を持って聞かせてもらいました。今回のパネリストは、これもまた横浜市の強みで、文部科学省の方や石川県の教育長になっている人もいましたが、実際、その人たちに、横浜市のいわば応援団になってもらってここに参加してもらっているというのも、横浜市の強みだなと思いました。個人的に興味があったのは、今、横浜教育ＤＸというのを国家の戦略の中でも経済界でも、横浜市そのものも市全体で目指していますが、本当にいろいろな段階であるというのが総論としてこの中で話されましたので非常に興味深く、これからどういう人材が求められていくのかなと思いました。産業界などに子どもが巣立っていくわけですけれども、その中でもそれを考えさせられる座談会だったと思います。

その中で一つ気になったのは、今、政府の予算関連でもあるのですが、デジタル人材の不足というか、これは大学でも非常に大きな課題になっています。人材不足の中で、これは質問ですが、横浜市も「（仮称）スマート教育センター」を

持ったり、これからどんどん専門の教員が必要になってくると思うのですが、その辺りの人材の確保と育成の考え方があったらお聞かせいただきたいと思います。

山本教育課程推進室長　ありがとうございます。今、中上委員に御指摘いただいた、これからこういった横浜教育ＤＸを進めていく上で、デジタルに強い学校の教員や職員を増やしていくということは、非常に大事なポイントだと思っております。今、横浜市でもＩＣＴ支援員だけでなく、教員の中でＩＣＴコーディネーターという役割を作り、学校の中で中心となってＩＣＴを進めていく、又は研修などを学校で行っていく教員の育成も図っております。今後はＩＣＴ派遣の企業などとも連携を図りながら、デジタルに強い人材というのも、教員の育成と併せてしっかりと進めていきたいと考えております。

中上委員　ありがとうございます。今のお話のとおりだと思いますが、政府の予算の内容を見ても、その中にもあるのですが、教員なりコーディネーターを増やしていくというのは当然ですけれども、あとは外部の人材を活用していくと言いますか、その具体例として、教育ＤＸ人材の育成は中学からでは遅いという意見もあります。一つには今、高等専門学校という、御案内のとおり、中学校から高等学校までの専門学校がありますよね。その生徒たちが小学校・中学校で教えるという取組も行っているようです。例えば高等専門学校だけでなく外部の人材も、いろいろな資格を取るために教員を研修するのも良いですけれども、外部の人材を取り入れて少しでも人材不足に対応していくと。そういう施策もぜひ検討していただきたいと思います。いかがですか。

山本教育課程推進室長　今、御指摘いただいた点についても、この教育課程研究協議会自体が今までどちらかというと学校の関係者が学校向けに発信していくような少し閉じた会ではあったのですが、今回みたいに民間の企業の方または大学の方、いろいろな方たちに集まっていただいて議論することで、横浜市の教育の在り方ということをみんなで議論する。さらに、そこで議論に参加していただくことで横浜市の応援団になっていただくというような趣旨も、実は私たちとしてはあります。なので、参加していただいた方だけでなく、今後ももっとこういった会を広げていって、ぜひいろいろな企業の方や専門的な方とも連携して進めていきたいと考えております。

鯉渕教育長　ほかに。

大塚委員　私も一日参加させていただきました。本当にあっという間の楽しいというか集中して話を聞く、魅力的な時間だったと思います。学校の立場として、総則部会は、校長と学校の教務主任など、代表的な立場の方と２人で参加することが多かったのですが、やはり対面で聞く良さというのがあります。それとともに、今回は録画をショート動画でお撮りになったということで、各学校の教員は全ての教育課程に分かれて参加していて、教育課程報告会というのをどの学校も行っているのですが、そこでの情報共有として、今回のショート動画の録画を活用することでミニ会議ができるという発信をしていただいたことも、私としては教育課程報告会の内容が充実するのではないかと期待しています。ぜひ各学校が一人ひとりの教職員に充実した教育課程の内容を届けるという部分で活用していただきたいと思います。

それと同時に、ＩＲＴについてのお話を伺ったときに、私が現場にいたら、やはり使ってみたいなと思いました。活用して、一人ひとりの子どもの個別最適な学習の支援にどうつなげていくかを考えていきたいとか、子ども自身が自分の成長の変容をつかみ取ることができるとか、すごく期待を持てる話でしたし、具体性もありましたから、自分たちの学校でそれをどう活用していこうかということを考える一つのエネルギーのもとにもなったのではないかと思っているのですが、各学校で職員のメンバー構成や学校の強み・弱みなど、そういった部分に応じて、ＩＲＴをどう活用していくことが具体的に可能なのかという部分で、不安も多々あるのではないかと想像されます。そういったところへの支援の仕組みというのでしょうか、何かお考えでしたらお聞かせいただきたいと思います。

山本教育課程推進室長　ありがとうございます。今、大塚委員からもお話があったように、今回の教育課程研究協議会は４日間にわたって行ったわけですが、今までは、参加した教職員が資料を印刷して、一日かけて学校の中で紙資料で共有するようなことを行ってきたわけですが、今回はそれぞれパートごとに録画して、それを部分的に学校の中でも見て共有できるような仕組みにさせていただきました。これによって、今のＩＲＴの部分については、まずは録画を見て情報を共有していただきながら、更にどのように活用していくのかという部分については、リーフレットなども保護者向けには配っているのですが、この後、指導主事がいろいろな学校を訪問する際に、または集合でいろいろな研修などを持ちながら、このデータをどのように利活用したら子どもたちのためになるかということを一番に考えて進めていきたいと思っています。

大塚委員　ありがとうございます。ぜひ現場の声をたくさん取り入れながら推進していただきたいと思います。

鯉渕教育長　ほかによろしいでしょうか。

四王天委員　今の大塚委員の質問と同様で、今回の総則部会の専門部会研究協議会というのは、私の捉えでは、組織における方針説明だろうと思います。これに参加していらっしゃるのは、集合で580人、オンラインで430人、約1,000人ちょっとということで、ほとんどが管理職の方向けになっていると思います。組織が大きくなればなるほど、管理職から下位職にだんだんと伝えていくものですが、それぞれにちょっとアレンジがあったり、自分の思いなども加わったりして、こちらの元の趣旨が正しく伝わらない場合も結構あると思います。横浜市には18,000人以上の教職員が働いている中で、生徒に一番接する最前線の先生方までこの方針がきちんと届いたら、本当に素晴らしい内容だと感じました。今の御説明で大分理解しましたが、ぜひともそれぞれの管理職だけでなく、一般の教職員にもちゃんとこのままダイレクトにこの内容が分かるような方法が講じられることを願っています。今の説明と同じで良いでしょうか。補足はありますか。

山本教育課程推進室長　ありがとうございます。本当に大事な視点だと思っています。今、集合とオンラインと両方ハイブリッドで開催していますが、なぜ両方開催するのかという声が学校からもある中、実はオンラインというのは、オンラインで１人だけが見るのではなく、ぜひそれを学校の中で広げて、どこかの部屋で集団で見るようなことも含めて行っていただきたいという発信はしております。さらには、この後、録画したｅラーニングを使って、とにかく横浜市の教職員約18,000人に届けたい

ということを、教育委員会事務局から今後もますます発信していきたいと思っています。

四王天委員　働き方改革などもいろいろあって、先生方にまとめて時間を確保していただくのは非常に難しいかと思いますが、これは根本としてすごく重要なものだと思いますので、ぜひその時間の確保もいろいろ考慮して差し上げていただきたいと思います。よろしくお願いします。

鯉渕教育長　よろしいでしょうか。

中上委員　今の四王天委員の話の関連ですが、昨年も参加していただいた、非常に前向きに取り組んでおられる本牧中学校の、梅原先生のコメントの中でも、学校の目標にもちゃんと挙げて、それの振り返りをまた共有化するということでした。先ほどの御説明の中でも、全教職員で共有して学校経営に生かしていくという、まさにそれを実践されている例だと思うのですが、振り返りの共有化や、教職員全体がチーム学校として取り組んでいくというところが非常に参考になると思うので、やはりｅラーニングなどはほかの教職員とも大いに共有していただきたいと思います。以上です。

石川学校教育企画部長　大変申し訳ありません。お手元の資料の訂正をお願いしたいと思います。２点ございます。一つは、「２　令和５年度　教育課程研究委員会　総則部会及び専門部会　参加者数一覧」の「図画工作、美術部会」の一番右側の合計が476になっておりますが、475でございます。大変申し訳ありません。あと、裏面の「３　令和５年度　教育課程研究委員会　研究協議会の発信」の「総則部会からの発信」が８月17日になっておりますが、８月18日の間違いでございます。大変申し訳ありませんでした。よろしくお願いいたします。

鯉渕教育長　ほかによろしいでしょうか。
特になければ、次に「中学校給食展の開催結果について」、所管課から御報告いたします。

林中学校給食プロモーション担当部長　中学校給食プロモーション担当部長の林と申します。よろしくお願いいたします。中学校給食展を８月に市庁舎で行いまして、約20,000人と大変多くの方々に来ていただきました。その内容について御報告いたします。詳細については中学校給食プロモーション担当課長からいたします。

吉池中学校給食プロモーション担当課長　中学校給食プロモーション担当課長の吉池でございます。「中学校給食展の開催結果について」、御報告をさせていただきます。横浜市では、子どもたちの心身の成長、豊かな食生活のために、令和８年度からデリバリー方式による全員給食を実現するための準備を進めております。今回開催の中学校給食展では、横浜市が目指す全員給食の姿や価値を、実際の生徒たちの写真や言葉、中学校給食スローガンの「いっしょのもの、食べた思い出、いっしょうもの。」に沿った展示や演出により表現してまいりました。
「中学校給食展の概要」でございます。令和５年８月５日から令和５年８月22日までの18日間、横浜市庁舎２階のプレゼンテーションスペースで実施いたしました。「内容」ですが、中学校の教室を再現しながら、黒板チョークアート、タペストリー、パネルの展示や、新しく作りましたプロモーション動画によりまし

て、横浜市が目指す全員給食の姿を感じていただく企画展といたしました。また、給食を調理する回転釜や野菜の想定摂取量を測れるベジチェックなどの体験コーナーも設けまして、子どもも楽しめる内容といたしました。「来場者数」ですが、延べで19,877人の方に来ていただきました。

「中学校給食展の様子」ですが、写真で御覧のとおり、お子様連れの方にも多く御来場いただきまして、来場された方からは、「中学校の給食って今こんな感じなんだ」ですとか、「全員給食になるのは助かる」「子どもがこれから食べる給食を親も知れてよかった」「国際都市横浜らしく海外の料理を多く取り入れてほしい」といったようなお声を頂いております。

裏面を御覧ください。「今後の展開について」ですが、中学校給食展で作成しました、プロモーション動画やタペストリー、パネルなどを有効活用いたしまして、区役所で実施するイベント等に合わせて広報するなど、全員給食の姿や価値を積極的に広報してまいりたいと考えております。

「参考」といたしまして、プロモーション動画とブランドスローガンについて記載しておりまして、こちらは後ほど御覧いただければと思いますが、特にプロモーション動画に関しましては、給食の価値をテーマとしまして三つのプロモーション動画を制作してまいりました。現在、YouTubeやInstagramで公開しております。現在のところ、合わせて20,000回近く再生しているような状況でございます。御説明は以上でございます。

鯉渕教育長　説明が終了しましたが、何か御意見・御質問等ございますか。

森委員　御説明ありがとうございます。このスローガンとセットで三つのキーワード、「つながる」「新たな発見」「健康を実感」というのがあると思うのですが、この三つというのが、横浜市の中学校給食が生み出したい価値なのだろうなと思います。実際、展示でもキーワードとして貼ってあるのを見ましたし、この動画もそのキーワードとセットで作られたかと思うのですが、なぜこの三つ、若しくはこの「つながる」、「新たな発見」等というのは、どういう思いでそのキーワードにしていったのか、何の発見をイメージしているのか、どんなつながりをというところをもう少し御説明いただけますでしょうか。

林中学校給食プロモーション担当部長　ありがとうございます。この三つの価値ですけれども、「つながる」というのは、今、動画でもその姿を出しているつもりですが、みんなで同じ物を食べて、いろいろな会話が生まれているのです。それを通してコミュニケーションが生まれているところを動画でも示しているのですが、そういった「つながる」。生徒同士のコミュニケーションもありますが、給食を渡してくれる配膳員さんとの関わりだったり、農家の方が作ってくれた物を食べている、工場で安全・安心に作ったものを食べているなど、そういったつながりを意識していただこうということです。

「新たな発見」は、メニューも行事食や国際食など、食べ物を通していろいろなことを知ることができる。食育ですけれども、たんぱく質はこういうことに役立つんだよ、体に良いんだよなど、そういった健康の知識を得ることもできる。我々の発信もその辺りを意識して広報していきたいと思っています。

「健康を実感」というのは、そういったバランスの取れたもの、専属の栄養士が考えたメニューですので、それを意識して食べることによって、自分のウェルビーイングというか健康も達成されていきます。我々はこの三つの価値を目指して進化していきたいと思っていますので、そういったことを我々も求めていると

いうか、そういったものも含めて表現したつもりでございます。

森委員　ありがとうございます。その「つながる」「新たな発見」「健康を実感」というところで御説明いただきましたが、誰かと一緒に食を囲むと言いますか、その時間を共有する。その食べた思い出というのが、中央にあるスローガンのところにつながるのではないかと今お聞きして思ったのですが、動画の中で、楽しい食と書いて何と読むのでしたっけ。

林中学校給食プロモーション担当部長　楽食（がくしょく）です。

森委員　子どもたちが楽食、楽しくみんなでしゃべりながら食べたいか、黙食が良いかということを授業の中で考える時間がありました。どっちもしたい子どもがいて、両方の意見を出し合って、その上で今日は楽食を選ぶ。そういうストーリーがこの中にあったと思うのですが、動画の中には実際の授業の風景があって、それができなかった期間は何が寂しかったかという子どもたちの本音もあったりして、その上でどのように思ったかという感想まで動画の中で流れていたと思います。私はこれがすごく響きました。これから各学校などいろいろなところで皆さん見ていくと思うのですが、例えば中学校の中でみんなで動画を見たときに、自分たちのクラスではどのようにこれから食べていきたいか、食べたいかというところを考える場面。ただ流すだけではなく、その動画を見ることで、それをどう活用して、自分たちはどのようにしていきたいかということを考える場面にぜひつなげてほしいと、見ながら思いました。

大塚委員　私も中学校給食展に参加させていただきました。本当に楽しい企画と言いますか、ベジチェックという健康チェックもあって、来場された方が楽しんで見られるものでした。今の森委員の御発言のプロモーション動画ですが、私も拝見させていただいて、そこに出てくる子どもたちの表情がものすごく自然で、とても良い顔をしていました。ですから、あれを見ていると自然と引き込まれていくことで、中学校給食に対する期待感とか、こういう思いや願いというのも湧いてくるのではないかと想像しました。このプロモーション動画ですが、今回のこの中学校給食展以降でどんな活用方法を考えていらっしゃるのか。これをまたつなげていくという御意見が森委員からもございましたが、そこをお聞かせいただきたいと思います。

林中学校給食プロモーション担当部長　動画については教育課程研究協議会でも流して、先生方、校長方にも見ていただいているのですが、今後は学校で、例えば給食の時間で流していただくなど、生徒や現場の先生方にも見ていただきたいというのと、あと、保護者向けの試食会などでも、小学校も含めて行うのですが、中学校ではこういう姿で食べていますよということのお伝えにもなると思いますし、安心もしていただけると思いますので、そういった場面でも活用していきたいと考えています。

大塚委員　ありがとうございます。完全給食にはまだ少し時間がありますが、今の６年生は来年のイメージが大事だと思いますので、特に４年生、５年生、６年生辺りがそういったイメージを膨らませて中学校に行けるということも、ぜひ念頭に置いて御活用いただきたいと思います。

中上委員　今回の中学校給食展で来場者が約20,000人というのは、イベントとしては成功したのではないかと思います。私も行って最初にびっくりしたのは、黒板チョークアートということで、黒板チョークアーティストはこういうきれいなのを描くんだなと、最初に心をつかまれました。その後、ベジチェックというのを初めて体験しました。私も個人的には野菜が苦手だったのですが、妻のおかげで野菜を毎日摂って具だくさんのみそ汁を何種類も食べるようになって、食べて初めて野菜のおいしさというのが分かってきました。実際の数値も、病院に行って食事指導をされると、やはり野菜を食べろと必ず言われます。それで、ここのところ改善を続けているので少し自信があったのですが、ベジチェックをしたら、数値が悪くて「もっと頑張りましょうね」と言われて、違う意味で非常にショックでした。ただ、今回プロモーション動画を見て考えたのは、先ほどの大塚委員の話ではありませんが、生徒や保護者の方に、中学校の給食の野菜はどうしてもあまり人気がないですよね。でも、体にとって大事なんだということを体験してもらったり、小学校ではいろいろな教科で食育を行っていただいていますが、中学校の中でも、これから食育をどう行うかというのも課題だと思います。

学校訪問をして感じたのですが、中学１年生辺りはまだ小学校の延長ですから、黙食が一段落した後は机を並べてみんなが向かい合って、本当に楽しく食べています。この動画を見たときに本当に情景が再現されていたので裏話を聞くと、あれはねつ造ではありません、自然な形だということを聞きましたけれども、本当に現場では楽しく食事しているのです。ところが、２年生、３年生になると、まだ従来型の黙食で食べているわけです。ですから、もうちょっと楽食ではないですが、食事を通したコミュニケーションの楽しさ、私は昭和レトロの世代ですから、親から早く食べろと言われていたわけです。昔の軍隊ではありませんが、早飯も芸のうちというぐらいの、そういう教育を受けてきましたけれども、やはり食卓を楽しく。今は共働き等でなかなか毎食囲むということは難しい時代かもしれませんが、いろいろな機会を捉えて家族で楽しく食事をするというのは非常に大事なことだろうと思います。ですから、食育で少し取り入れていただきたい、そういう意味で、この動画は見ていて非常に良くできていると思いました。以上です。

鯉渕教育長　ほかに。

木村委員　こういった中学校給食展などは、何を伝えるかというのが重要だと思います。伝え方でも、具体的に何を伝えるか、どういう思いを伝えるかというのがあると思いますが、まさしく教育委員会事務局として、横浜市として、中学校給食に対する思いが入り、その後に具体的な内容を伝えていて、伝え方がものすごく上手だと思っています。文章ばかりの説明だと多分入ってきませんが、思いを伝えた後に具体性がなかなか面白かったので、ぜひこういったものを展開していただいて、次につなげていただければと思いました。以上です。

四王天委員　今回のこの中学校給食展というのは、18日間で約20,000人弱の来場者がいたということですが、なるべく多くの市民の方に中学校給食とはどのようなものか見てもらうということがすごく重要ですよね。皆さんの意見がたくさん出るということ。それと、その価値をちゃんと測ってもらい、いろいろな意見を聞くのがすごく大事だと思います。今回は２階のプレゼンテーションスペースだけで開催したかと思いますが、もっと別の場所で、場所を広げるという発想、例えばもっと

人が集まるところ、みなとみらいの商業施設や、図書館など、規模としてはもう少しミニマムなものにしても構わないけれども、もっと多くの人が触れる場所で、中学校給食とはこういうものですよということを知ってもらうことがすごく大事だと思いますが、そのような展示場所の拡大みたいなお考えはなかったでしょうか。

林中学校給食プロモーション担当部長　ありがとうございます。今後ですが、18区役所があり、そこに教育関係の者もいますし、区役所は区役所で食育と言いますか、健康増進の関係や子育て支援の関係でいろいろな独自のイベントがあります。子育て施設などいろいろな人が集まるところでいろいろな展開を行っていますので、そういったところで、今回開発した動画や、タペストリーや食育迷路も含めて使ってもらうことによって、より理解と、健康増進などそういったことも含めて一緒にできるような形で今後進めていきたいと思っています。

四王天委員　区役所というと、どちらかというと、大人の目でも良いのですが、今私が言ったみたいな例え話だと、図書館みたいなところのほうが親子連れが来場されるような気もするのですが、その辺りはいかがでしょうか。

林中学校給食プロモーション担当部長　図書館も検討させていただきますが、私が言いたかったのは、例えば港北区だとトレッサ横浜のような子ども連れの買物客が多いところなどでイベントを開催しています。すごく人が多くて、各区に結構そういうものがあります。新しくできた保土ケ谷区のイオン天王町ショッピングセンターも、例えば区役所の資源化推進担当によるごみ啓発などのイベントスペースを貸してくれたりなど、いろいろなことができていますので、そういった取組に相乗りするというか、そういった形で広めていきたいと思っています。

四王天委員　ぜひいろいろなところで宣伝して、いろいろな意見を集めていただきたいなと思います。より良いものになるよう祈っております。

鯉渕教育長　ほかによろしいでしょうか。
それでは次に、議事日程に従い、報告案件に移ります。まず、会議の非公開についてお諮りします。教委報第２号「令和５年度歳入歳出予算案（９月補正）に関する意見の申出に係る臨時代理報告について」は、議会の審議案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員　＜了　承＞

鯉渕教育長　それでは、教委報第２号は、非公開といたします。
以上で公開案件の報告が終了いたしました。事務局から報告をお願いします。

片山総務課長　次回の教育委員会臨時会は、９月15日金曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会定例会は、10月20日金曜日の午前10時から開催する予定です。

鯉渕教育長　皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会臨時会は、９月15日金曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会定例会は、10月20日金曜日の午前10時から開催する予定です。別途通知しますので御確認ください。

次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴・報道機関の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も退席してください。

＜傍聴人及び関係者以外退出＞

教委報第２号「令和５年度歳入歳出予算案（９月補正）に関する意見の申出に係る臨時代理報告について」
（報告のとおり承認）

鯉渕教育長　本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会定例会を閉会といたします。

［閉会時刻：午前10時53分］